

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会
(第25期・第2回)

議 事 概 要

1. 日 時 令和3年10月26日(火) 15:00～17:00

出席者(敬称略): 植松光夫、関村直人、森口祐一、青井考、五十嵐康人、伊藤好孝、岩崎俊樹、恩田裕一、木名瀬栄、篠原厚、高橋知之、高橋嘉夫、田上恵子、谷畑勇夫、豊田新、難波謙二、星正治、箕輪はるか、山澤弘実(19名)
オブザーバー: 青山道夫、津旨大輔(以上、新委員就任予定者)、乙坂重嘉、帰山秀樹、滝川雅之、永井晴康、溝上伸也(以上、環境放出と拡散解析WGメンバー)、

2. 場 所: オンライン会議

3. 議題および議事概要

今回は、環境放出・拡散解析WGメンバーもオブザーバーで参加し、同WGとの合同の拡大小委員会とする。

(1) 小委員会への委員の追加

小委員会に新たに委員として加わる青山道夫委員、津旨大輔委員が自己紹介を行った。幹事会の承認は既に得ているが、委嘱手続き期間中のため、今回はオブザーバー参加の扱いとなる。

(2) 議事録に基づく前回の議事内容の再確認

前回議事録(資料2)の要点、特に今期の活動、WGに関する前回議論について、小委員長から紹介された。(特に質疑なし)

(3) 第24期にまとめた報告の英文化の検討状況

・小委員会役員で協議し、恩田副委員長が自動翻訳ソフトを活用した作業を進めたことが紹介された。これをサーバー上共有して編集することとし、執筆担当者を中心に検討頂く。

・和文版取りまとめ以降のアップデートを含めるかどうか。

・提言・報告など意思の表出のプロセスについて、学術会議の検討状況の確認が必要。小委員会では意思の表明の提出の権限はなく、上位の分科会、委員会、幹事会での了解などが必要。

・学術会議の文書はHPにて公開なので、パブリックに出来る。学術会議報告として認められなかった場合、元が学術会議の正式文書なので、翻訳を別組織から出すのは困難。

・コミュニティに知ってもらうことが重要であり、知的所有権の問題なので、きちんと対応する必要がある。

・和文版の審査過程で、学術会議幹事会で「貴重なので英文化を検討したら」との支持意見があったこともあり、王道として正式な報告を目指したい。

(4) データアーカイブズワーキンググループの活動状況

資料4に沿って伊藤幹事から半年間の活動状況の報告がなされた。

- 1) サーバー運用等に関する状況、アクセス状況、許諾、リンクなど。
- 2) 今期の活動、5年間は維持したい。データの新規取込み、学会通じたアンケートの計画など。

(5) 環境放出・拡散解析ワーキンググループの設置と活動計画

- ・ 資料5をもとに小委員長が概要、経緯・趣旨の説明。前WGでは、環境と事故進展解析の専門家が参画し、炉内事象と大気放出との紐づけ、モデルの国際比較など、進展があったのを受けて今期、海洋への処理水放出の問題なども含めて扱いたい。
- ・ 今期、新たな報告書の作成を目指すどうか、要検討。
- ・ 小委員会メンバー外のWGメンバー紹介があった。
- ・ 大気、海洋を分けるかどうかについて、海洋は分けた方が効率がよい。事故進展については、連携が重要。事故初期と長期とのグループわけはどうか。
- ・ 小委員会メンバー全体への海洋に関してレクチャー希望。成書としてまとめつつあるので、代表著者4名でのレクチャーを希望。
- ・ 生物についても含めてほしい。上記の著者でレクチャー可能。
- ・ 次回、12月中旬に第3回小委員会—海洋のレビューレクチャーとしたい。
- ・ 大気での問題：テルル、ヨウ素、希ガス（初期被ばく）、ヨウ素の化学。防災・防護スキームとATDM活用の問題等について意見交換がなされた。

(6) その他

小委員会委員が各々の関心事等について意見を述べた。

配布資料

資料1 小委員会委員名簿

資料2 小委員会第25期第1回議事録

資料3 第24期報告の暫定英訳版

資料4 第25期 放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの活動状況と今後の活動方針について

資料5 事故と環境情報の交流WGを再編した環境放出・拡散解析WGの活動計画